



環境研究総合推進費シンポジウム2017
@沖縄県青年会館



世界自然遺産登録に向けた やんばるの森の生態系管理

主催： 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
共催： 琉球大学農学部、長崎大学環境科学部、東京農工大学
後援： 環境省那覇自然環境事務所、林野庁沖縄森林管理署、沖縄県



講演内容と演者

送粉系は縁の下の力持ち
—やんばるの生態系サービスの現状—
安部哲人（森林総合研究所九州支所）

多様な動植物の暮らしを支えるやんばるの森の木々
高嶋敦史（琉球大学農学部）

かろうじて生き残ったオキナワトゲネズミ：
絶滅を回避するために今できること
小高信彦（森林総合研究所九州支所）
安田雅俊（森林総合研究所九州支所）
巨悠哉（森林総合研究所）

開催要綱

日時 平成29年12月10日（日）
開場 13:30
講演 14:00～16:30

会場 沖縄県青年会館 2階大ホール
沖縄県那覇市久米2-15-23

対象 どなたでもお気軽にご来場ください

申込・参加費 不要

環境研究総合推進費シンポジウム2017@沖縄県青年会館
世界自然遺産登録に向けたやんばるの森の生態系管理

本シンポジウムは平成27年度に新規採択された（独）環境再生保全機構の環境研究総合推進費（4-1503）「奄美・琉球における森林地帯の絶滅危惧種・生物多様性保全に関する研究」（平成27～29年度、研究代表者：正木隆）の研究成果を地域や行政機関等に速やかに還元し、連携して研究プロジェクトを推進するために実施します。本研究プロジェクトは、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所、国立大学法人琉球大学、国立大学法人東京農工大学、国立大学法人長崎大学の共同研究事業です。

日時：平成29年12月10日（日） 会場：沖縄県青年会館 2階大ホール
13:30 開場
14:00～16:30 講演

開会挨拶 正木隆（森林総合研究所企画部研究企画科長）

送粉系は縁の下の力持ち - やんばるの生態系サービスの現状 -

安部哲人（森林総合研究所九州支所）

多くの植物の実はいかに自動的にできるわけではなく、花粉を運ぶ生物がいることで結実します。やんばるの森ではどんな生物が花粉を運んでいるのでしょうか？花粉を運ぶ生物と運んでもらう植物（花）から成る生物群集を送粉系と呼び、植物が子孫の残すための重要な生態系機能の一つです。本講演では私たちが普段あまり意識しない送粉系の働きとグローバルな送粉系衰退の現状を解説します。また、やんばるの森は永く固有の生物相を維持する根幹でしたが、古くから居住地に近かったため人間活動による生物への影響が指摘されています。土地利用などの影響により、やんばるの送粉系はどのように変化しているのでしょうか？ハブに噛まれる危険を顧みず（？）やんばる初心者が森を駆けずり回った本研究プロジェクトの3年間の調査結果を報告し、生態系機能の保全という観点から議論します。

多様な動植物の暮らしを支えるやんばるの森の木々

高嶋敦史（琉球大学農学部）

やんばるの森では固有種を多く含む多様な動植物が暮らし、複雑な森林生態系を形成しています。中でも心材が腐朽した幹に巣穴を掘るノグチゲラ、大型樹洞を利用するケナガネズミやヤンバルテナゴコガネなど、大径木に依存して暮らしている絶滅危惧種が多いことは、この地域の森林生態系の大きな特徴と言えます。では、やんばるの森を構成する木々はどれぐらいの時間をかけて成長し、大径木になるのでしょうか？そして、その大径木にはどのように樹洞が発生しているのでしょうか？動物の重要な餌資源となるイタジイのドングリの豊凶や、台風が森に及ぼす影響などとあわせ、調査から得られた森の木々に関する知見を幅広く紹介したいと思います。

かるうじて生き残ったオキナワトゲネズミ：絶滅を回避するために今できること

小高信彦（森林総合研究所九州支所）、安田雅俊（森林総合研究所九州支所）、巨悠哉（森林総合研究所）

オキナワトゲネズミはやんばる地域の常緑広葉樹林に生息しており、最も絶滅が心配される哺乳類の1種です。2008年の約30年ぶりの再発見までは、ほとんどの人が存在も知らない状況でした。1930年代には名護市の源河流域以北に広く生息していましたが、1990年代以降はSTライン（塩屋湾と東村の平良を結ぶライン）の北側でしか生息情報がなく、近年は島の最北部である西銘岳周辺でしか姿を確認できなくなっています。オキナワトゲネズミの急速な減少要因は生息環境である老齢林の減少・分断化と、外来哺乳類であるマングース・ネコ・イヌ・クマネズミによる捕食や競争であると考えています。本講演では、従来、捕食性哺乳類が生息せず、ハブやアカマタなどの大型ヘビ類が食物連鎖の頂点に立つ特殊な森林生態系で進化したオキナワトゲネズミのユニークな生態を紹介するとともに、これから私たちが本種の絶滅を回避するためにできることについて議論したいと考えています。

総合討論 やんばるの森の世界自然遺産登録に向けた課題とは？

閉会挨拶 環境省那覇自然環境事務所